

令和7年度 第2回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

日 時	令和7年11月18日（火）午前10時30分～午前11時30分
場 所	羽島市役所301会議室
出席者	<p>（生涯学習都市推進会議委員）出席者17人（欠席者2人）</p> <p>松井 聡 委員 市長 大橋 好三 委員 老人クラブ連合会代表 小森 博昭 委員 スポーツ推進会議代表 中山ゆりえ 委員 PTA連合会代表 堀 登司仁 委員 社会教育委員代表 岩田 睦巳 委員 小中学校長会代表 岩田 明 委員 自治委員会代表 小林 美雪 委員 学識経験者 近藤かよ子 委員 学識経験者 益川 浩一 委員 学識経験者 國枝 篤志 委員 副市長 森 嘉長 委員 教育長 三輪 弘司 委員 健福祉部長 堀 一男 委員 産業振興部長 小川 剛矢 委員 障がい者支援団体代表 浅野 弓子 委員 公募委員 田谷由紀子 委員 公募委員</p> <p>事務局 伊藤佳津子 市民協働部長 丸山 靖生 生涯学習課長 富田 修平 市民協働課長 柴田 泰宏 スポーツ推進課長 番 重宗 図書館長 國井真美子 子育て・健幸課長 高田 裕彰 子育て・健幸課長 吉川 徹 生涯学習課課長補佐 牛田紗耶香 同課係長 辻 朝子 同課主任</p>
内 容	<p>1 会長あいさつ</p> <p>2 協議 羽島市生涯学習都市づくり5か年計画（案）について</p>
協 議	<p>羽島市生涯学習都市づくり5か年計画（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき生涯学習課長より説明 ・会長の進行に基づき意見交換（委員及び事務局から補足説明）

令和7年度 第2回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

資料1：概要 資料2：計画（案） 第1～3章 〈P.1～15〉 （資料4：目標指標 含む）	
委員	生涯学習とは、共感することが大事だと思う。Y o u T u b eでいろいろなことを見て勉強するのもわかるが、人と人が会って共感することにより、学ぶスキルが上がるのではないか。計画の内容はすばらしくできていると思うが、共感という部分を入れることによって、考え方が変わると思う。
委員	学ぶ場の提供ということで、コミュニティセンター等の施設が書かれているが、小学校を活用できれば、地域住民に身近な施設なので、出かけやすく参加しやすいのではないかと思う。
事務局	学校の整備には視点が向いていないが、目標の1は施設の環境整備を図ることなので、関連するところがある。そこも含めた表現ができるように検証したい。
委員	<p>家族が吹奏楽部で、個人練習のために文化センターが借りられるように登録をしているが、1週間以上前でないと言約ができない。サラムンカホールだと明日でも空いていれば使わせてもらえる。準備など理由はあると思うが、言約の猶予が短い、空いているからどうぞというスタンスだと利用しやすくなる。</p> <p>情報発信については、学校でも様々なチラシをもらうが、それぞれ個別にもらうので埋もれてしまう。また、すぐ～るでも情報が来るが見逃すことがある。市で企画しているものを一覧で見られると予定を立てやすい。</p>
会長	<p>施設の利用申し込みについては、他の類似施設の申し込み方法を調べ、比較検討させていただく。</p> <p>また、学校側からいろいろな情報発信をされているが、行き届かないという問題は発生しているか。</p>
委員	教育委員会から社会教育に関わる内容を提供していただいている。例えば図書館の情報であれば、教育委員会から図書館の情報を配信してくださいという依頼があり、それを受けて学校からそれぞれの保護者の方に送るという仕組みになっている。4月当初に保護者に市の公式L I N Eに登録するよう依頼すると、教育委員会が間に入らずに、L I N Eで市から直接情報を受け取ることができ、よりすっきりした形になると思う。

令和7年度 第2回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

委員	<p>すぐ～るは、基本的に学校教育に関わることを中心に発信している。家庭教育学級やPTAの方々が研修する内容については、保護者を対象に発信しているが、あまりにも情報を出しすぎると、情報過多になって、必ず閲覧してほしい内容と混在してしまう可能性がある。生涯学習や社会教育、スポーツに関わる情報については、精選しており、市民一般の方への情報については、すぐ～るでは制限している。</p>
委員	<p>スポーツ推進員と総合型スポーツクラブが、パラスポーツの普及を行っている。先日もスポーツフェスティバルでボッチャを行ったが、施設の関係で、障がい者の参加が少なかった。竹鼻小学校ではバリアフリーのトイレが作られているが、障がい者が入りやすいよう、施設には入口のスロープ設置やトイレのバリアフリー化など配慮が必要である。特別支援学校でもボッチャ大会を行うが、年1回ではパラスポーツが広まらない。今すぐというわけではないが、例えば竹鼻小学校の体育館を、日曜日の1時間か2時間、パラスポーツのために開放していただくというようなことができれば、市内でパラスポーツも広がっていくのではないかなと思う。</p> <p>また、先ほど文化センターの使用のことでご意見があったが、先日顧問会議で、中学生のクラブ化で使用する際、使用料が高いという話があった。義務教育の子どものクラブ活動については、全額免除という要望を出している。</p>
委員	<p>羽島市には3、4千人の障がい者の方がいるが、羽島市の身体障害者福祉協会には100人くらいしか所属しておらず、さらに高齢化している。障がい者の70%以上が実は高齢者であり、20代以下は1.2%くらいしかいない。そんな中でパラスポーツを普及するのは難しい現状である。また、団体への加入も少なく、組織が弱体化しつつある。そのため、情報も伝わりにくい。これらは全国的な状況ではないかなと思う。</p> <p>一方で、いろいろな市町村の講演などに参加する機会があるが、羽島市は人が集まっている。市民資源が豊富という面もあるので、活動を続けていくことが、将来につながるのではないかと感じている。</p>
会長	<p>情報発信は中身をよく考える必要がある。市でも今後団体のPRをする際には、こういうことをするので入ってほしい、というだけでなく、こういうことをしてこんな成果があった、という形で発信させていただく。</p>
委員	<p>アンケートの結果から基本方針が導き出されているので、全体的にはこの方向性で良いと思う。</p> <p>各委員のご意見と対応する形で所見を述べると、まず学校施設の活</p>

令和7年度 第2回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

	<p>用というお話があった。空き教室等がない中で使うことは難しいので、おそらく教育委員会や学校と協議が必要だと思う。学校施設の整備よりは施設をどう活用するかという観点を計画にどう入れるかを事務局では議論いただきたい。また、施設の活用だけではなく、学校の子どもたちと一緒にって行う共同・共有体験的な活動を計画に盛り込むことができないか。教育大綱に含まれているとは思いますが、生涯学習の計画でも、学校とのつながりや子どもと一緒にった取組、地域学校協働活動が入っていると良い。</p> <p>2点目に、先ほど出た共感という言葉が非常に大事だと思った。一緒になって何かを取り組むという共同・共有体験を通して、学びだけではなく、その学びを分かち伝え、一緒に行った経験から一体感が生まれる。その一体感をもとに、お互いの信頼感や共感が生まれ、そのつながりが地域づくりの一番の基盤となっていく。そうした学びを通したつながりづくりが、基本方針2のところで、もう少し強調されると良い。</p> <p>3点目は、パラスポーツのことで、多様性や立場を超えた学び合いというところを強調すると良いと思う。「障がいの有無、国籍にかかわらず」「多様性を踏まえた学び」ということは書かれているが、全体として世代が強調されている。世代も大事だが、世代や立場を超えた、という視点が入ると非常に良い。</p> <p>また、基本方針2の目標5（1）「団体と共に創る活動機会」となっているが、「活動機会を創出する」というような形のほうが表現として良い。</p> <p>また、目標4の（2）は資源の保護・啓発というところにとどまっているが、それに加えこれらをまちづくりや学びに活用するという観点が入ってくると良い。</p> <p>最後に情報提供のところで、イベントや学習機会に参加することによって自分にどんな学習の成果がもたらされるのか、というメリットが情報発信の段階でもある程度わかるようにすると良いと思う。</p>
<p>資料2：計画（案） 第4章 基本方針1 目標1～3 〈P. 16～21〉 （資料4：目標指標 含む）</p>	
委員	<p>バリアフリーに関する施設整備を加えてはどうか。老朽化している現状もあるが、羽島市は今後の交通機関のキーワードになる町でもあるので、いろいろな場所のバリアフリー化を進めるのが重要であり、スポーツ施設も文化施設も共に考える必要があるのではないかな。</p>

令和7年度 第2回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

委員	書き方について、目標1（2）「誰もが学べる環境づくり」の「インターネット等を活用した学習環境づくり」のところで、「電子図書館やYouTubeによるデジタルコンテンツの充実」と「イベントや施設利用のインターネット申し込み」を一緒の欄に書いてしまうのは無理があるのではないか。本質が違うと思うので、別の書き方ができないか。
事務局	インターネットを活用するという観点で、コンテンツの充実とインターネット申し込みシステムの充実を並べて記載した。インターネットを活用した学習環境づくりのいう項目の中には、本来他にもさまざまなものが含まれ、この二つはあくまでその取組例として挙げている。
委員	目標指数について、目標2「多様な学習機会の提供」は、基本方針1「主体的な学びを支える土台づくり」にあたるので、機会を提供した結果、講座や体験を受けた方々がどういった意識になるか、主体的に参加されたのか、を指標とする必要がある。回数によって、主体的な学びがあったとみなすのは難しい。目標5の目標指標は、「専門家による学習機会に満足している参加者の割合」となっているが、満足度が出てくるのはここしかない。目標2について、何か一つくらいは、体験で満足したかや、次もやってみようと思ったかなどの意識を聞いてもいいかと思う。
会長	まったく同じ意見である。全ての催し物にアンケートを取るとするのは無理があるが、満足度は確かめておく必要があり、成果指標としてつけ加えるよう事務局で調整願う。
委員	<p>現行計画での分野ごとの項目から、新しい計画では縦の軸で見ることに変えたということは、事務局の説明でわかったが、市民が見たときは分野ごとの項目のほうがわかりやすい。今までそれに慣れているので、新しく6つの項目を縦に見るということであれば、もう少し詳しい説明があったほうが良い。市民の方に理解していただくために、何らかの工夫がいるのではないかと思う。</p> <p>目標指標を見ても、令和6年度の回数を基準に令和12年度の目標をたてたということはわかるが、回数だけを見ても市民の方はどんなものかわからない。現行との違いや理由を詳しくわかりやすくしていただきたい。</p> <p>また、18ページの「子育てに関する学びの場の提供」について、家庭教育学級が取組例に載っているが、取組例とするなら、「家庭教育学級」だけではなく、家庭教育学級をどうしていくかという書き方が望ましい。取組例を詳しく書いてあるところと、単語のみの表現のところがあるので、統一をしてはどうか。</p>

令和7年度 第2回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

会長	事業名だけを記載している部分があるところは、事務局で調整願う。
資料2:計画(案) 第4章 基本方針 2 目標 4～6 〈P. 22～27〉 第5章 〈P. 28～29〉 (資料4:目標指標 含む)	
委員	目標6「成果を発揮する場の創出」に関連して、何を学んだらいいかわからない、学べる場所の情報を得ることができない、という若者たちがいる現状がある。情報をわかりやすくし、参加しやすくするとともに、学んだことを活かして発信ができ、成果を発揮する環境ができると良いと思う。
委員	はしまモアスポーツクラブが主催で、日曜日に地元の中学校の体育館でボッチャをした。場所がわかれば参加したいという若い人もいれば、車を使ってでも行きたいという人もいた。もっといろんな会場でやっていただけると良い。
委員	団体の組織力が非常に弱くなっている。一緒に活動するために必要なことを、団体は自分たちで実施できなくなっているため、団体をサポートする人たちの育成も大切である。身体障害者福祉協会は県内に5千人の会員がいるが、毎年千人ずつ減っている。団体の組織力がなくなっていく中で、どうやって10年、20年続けていくかが大きな課題となっており、活動支援を具体的にどうしていくかを皆さんで考える必要がある。
委員	団体に入ってどうなるのかということを、伝える必要がある。若い世代はメリットを求めているので、今後団体支援をしていくにあたって、こういうことが自分たち、子どもたちにとって大切だということを伝えることが必要である。文化活動にも関わっているが、お囃子の体験などは子どもも大人も思った以上に参加された。親子で体験する喜びを伝えるなど、体験して身につけた方の意見を発信していくと良い。若い方はインターネットを見るので配信で伝えていくのが良いと思う。
委員	<p>今の議論を聞いていて、全体の流れ、方針、施策、取組について、この形で進むことを、委員の皆さんもご理解されたかと思う。</p> <p>計画のたてつけを変えられたため、委員の皆さんからいただいた意見は勘案する必要があると思うが、生涯学習というのは総合的にいろいろなことに取り組まなくてはならず、そのために変更したと理解している。そのような意図をもっていることが伝わる工夫が必要だが、各分野の個別の事業がこの計画の後ろについてくる形になるので、そこで明らかになると思う。</p> <p>目標指標については、満足度等をいくつか加えることは大事だと思うが、学習者の意識・行動の変容や社会的インパクトを数値で表すこと</p>

令和7年度 第2回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

	<p>は難しい。評価をするときに、目標指標による具体的な数値だけを評価するのではなく、具体的な成果や意識・行動の変容、満足度などの、アウトカムの観点から評価をするという受け取り方が必要だと思う。可能なものは数値として入れ、数値として入れにくいものは文章などでしっかり評価していくと良いと思う。</p> <p>事務局の説明と委員のやり取りを聞いて、すべての人に優しく、すべての人のウェルビーイングを追求できるまちをつくっていくということが一番の方向性であり、それを学びという切り口で示しているのがこの計画だと理解した。この計画は、学習権保障であり、健康で文化的という意味での生存権保障でもあり、それに加えて幸福追求権を保障するという視点もある。委員の皆さんからいただいた意見を勘案してより良いものにしていただけるとありがたい。</p>
	閉会